



《盛会だった新年会 報告》

日時：1月21日（土）午後3：00～
会場：鳥の坊（金沢市里見町）ほか

金沢龍馬会の新年会は金沢市内のエクスカージョンと「鳥の坊」にて開催。この日22名の男女会員が参加、大いに飲み語り楽しいひと時を過ごしました。

参加者は宮島/中川/玉井/不破/蛭子/宇賀/中田俊/佐藤/大坪/吉田/紐野/富来/寺元/周藤/北川/小幡/中田文/谷/新谷/熊野/藤井/小峰、合計22名が参加、盛大に開催されました。

15時より有志14名でエクスカージョンに出かけました。最初に東京国立近代美術館工芸館移転関連施設を訪れました。県立能楽堂の横にある旧第九師団庁舎跡、金沢偕行社、いずれも工芸館新建屋の一部となります。

次に建設場所へ行き、そして第九師団師団長官舎前を通過し、21美術館にたどり着きました。ここでは無料コーナーを専門に巡回しました。

鳥の坊へ戻り懇親会に移りました。会長の新年あいさつに続き、会報の紹介、本年最初に届いた龍馬が暗殺5日前に書いた中根雪江宛の書簡を披露しました。

新入会員その他の自己紹介に移り、あとは会員間の意見交換が積極的に行われました。楽しいひと時はあっという間に時は過ぎ最後は駆け付けられ楽しい宴は無事に終了しました。大い

に盛り上がり大盛会、金沢龍馬会健在をお互いに確認しあった貴重なひと時でした。

《総会》

日時：6月17日（土） 15：00～18：00
場所：桜はなび
講演：未定
懇親会：16：00～
費用：参加費¥3,000円、年会費¥3,000円

《北陸三県大会》

日時：7月1日（土）午後
場所：福井駅前アオッサ

【会員のつばやき】

“書状に見る龍馬の本心”

勝田博史

少しづつ「坂本龍馬」という人物に惹かれていく自分がこの金沢龍馬会にいる事で楽しくて仕様がな

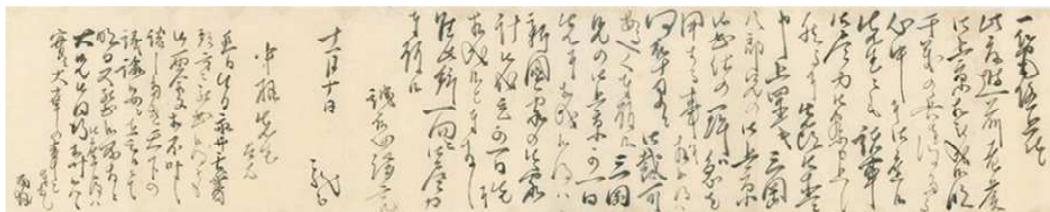


新年早々、龍馬の「暗殺5日前の書状見つかる」「新しい国家目指し奔走」と、大きく報道された。

これまでは、単に「幕末の志士」程度でしか思っていなかったが一

挙に接近した。

入会間もない頃にも、姉に小遣いをせびったも



一筆啓上仕候、
此度越前老侯
御上京相被成候段
千万の兵を得たる
心中に御座候、
先生も諸事
御尽力御察申上候、
然るに先頃御直三
申上置キ三岡
八郎兄の御上京
御出仕の一件ハ急を
用する事に存候得ハ
何卒早々御裁可
あるへ奉願候、三岡
兄の御上京が一日
先に相成候得ハ
新国家の御家
計御成立が一日先に
相成候と奉存候、
唯此所 一向御尽力
奉願候
誠恐謹言
十一月十日
龍馬

一筆啓上差し上げます。
この度、越前の老侯（松平春嶽）が上京になられたことは千万の兵を得たような心持ちでございませう。先生、中根雪江にも諸事ご尽力くださいましたこととお察し申し上げます。しかしながら、先ごろ直接申し上げておきました三岡八郎兄のご上京（新政府）ご出仕の一件は急を要することと思っておりますので、なにとぞ早々に（福井藩の）ご裁可が下りますようお願い申し上げます。三岡兄のご上京が一日先になつてしまつて考えられます。ただ、このころにひたすらご尽力をお願いいたします。誠恐謹言
11月10日
龍馬
中根先生
左右
追白
今日、永井玄蕃頭（幕臣の永井尚志方へ訪ねていたので）がご面会はかないませんでした。（永井と）談じたい天下の議論が数々ありますので、明日また訪ねたいと考えています。大兄（中根）もご同行がかないますならば、実に大幸に存じます。
再拜

越前御藩邸
中根雪江様 才谷模太郎
御直披
（封紙に付いた朱書の付箋）
「坂本先生遭難直前之書状に而他見ラ憚ルモ也」

のや後藤象二郎宛のものなど、度々新聞紙上を賑わしている。書簡の真價は別にしても、龍馬の本心と行動力がよく窺がえる。

わが金沢龍馬会の行動、企画力も素晴らしく、3年前には10周年大会、北陸3県交流会など催し、会合の度に金沢の幕末・明治の先人たちに学ぶ武家屋敷、寺町寺院群めぐりや講話等。さらに会報の発刊、ホームページの作成と充実した会となった。

皆さんありがとう。これからも大いに談論風発して語ろうじゃありませんか！

まるわかり「龍馬入門講座」⑦

これは2010年NHKテレビで放映された大河ドラマ「龍馬伝」が始まる前、坂本龍馬を紹介する為長崎国際観光コンベンション協会が作ったパワーポイントです。今回連載に際し吉田が若干編集しました。(本掲載は金沢龍馬会内部のみです)

23、海援隊の理念は「海援隊約規」に明文化されています。

第一条に「本藩(土佐藩)。他藩を脱するもの海外の志のある者、この隊に入る。運輸・射利、開拓、投機、本藩の応援を成すをもって主とす。

今後自他に論なくその志に従って選んでこれに入る」とあり藩や身分制度の枠を超えた近代的理念を先取りした龍馬らの理想が反映されています

第二条には

「隊中のこと一切隊長の処分に任す」と隊長の権限を。

第三条は隊士の相互扶助に関する規律。近藤長次郎の事件を背景にしてか、隊の結束を強める姿勢がうかがえます。

第四条には修行項目として、政法、火技、航海汽機、語学などを明記。「その志に従ってこれを取り、互いにあい勉勵、あえてあるいは怠る事なかれ」とし、隊士の個性に応じた修行を重んじています。

第五条には、隊の経費は営業利益でまかなう独立採算とし、不足した場合は土佐藩に援助を求める契約が定められています。

海援隊は神戸海軍操練所、亀山社中の精神を受け継ぎながら、学問の研究としての性格を強めていきました。

海援隊本部は土佐商会にも近い小曾根家別邸に置かれ活動していました。

土佐商会の経営をまかされていた岩崎弥太郎の日記には、海援隊への資金融通などが記され、隊士には月5両が支給され当時の留学者に与えられていた公費に相当する金額と推定されます。

海援隊はわずか一年足らずで消滅しましたが、その名を歴史に刻んでいます。

「続く」(記:吉田信夫)

●年会費納入のお願い

29年4月から来年3月迄の年会費:

¥3,000

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No.

00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

【新入会員】

木谷 玲さん・新谷洋子さん・熊野盛夫さん
藤井 敦さん

【編集後記】

皆さま、フレッシュな4月、さあ、今年度も心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。

会報も第11号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。これからも皆さまのご指導ご鞭撻をいただきながら楽しい会報作りを目指したいと思っています。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会 長: 中川可能作

事務局長: 吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com



会報担当: 中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muj.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>